

2024年2月期 決算説明資料

東証スタンダード | 3223

株式会社エスエルディー

2024年4月26日



目次

01

会社概要

02

事業内容

03

2024年2月期決算概要

04

今後の取り組み

05

トピックス

会社概要

商号	株式会社エスエルディー SLD Entertainment, Inc.
代表者	有村 譲
設立	2004年1月6日
資本金	48,876千円(2023年2月28日現在)
所在地	〒108-0014 東京都港区芝4-1-23 三田NNビル
連絡先	03-6866-0245
従業員数	正社員:144名 アルバイト:801名 (2023年2月28日現在)
事業内容	飲食サービス コンテンツ企画サービス



事業内容

■ 飲食サービス

店舗の立地や特性に合わせた様々なブランドの飲食店を開発し、関東、東北、東海、近畿、九州地域の繁華街エリアを中心に直営店舗を展開しています。特に「kawara CAFE & DINING」などのカフェダイニング業態に注力。音楽、アート、食に焦点を当て、常に楽しんでいただけるサービスを提供し、カルチャーコンテンツが豊富な店舗づくりを行っています。

■ コンテンツ企画サービス

コラボレーションイベントに特化した店舗運営や店舗プロデュースサービス、イベント企画等を行っています。特に「Collabo_Index」では、IPコンテンツを用いた期間限定のコラボイベントを企画・運営。また、「プロデュース」では、新規及び既存顧客の創出を目指し、店舗や屋外スペースの企画・運営を行っています。

飲食サービス

売上構成比率

70.6%

コンテンツ企画
サービス

売上構成比率

29.4%

決算サマリー

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが2類相当から5類へ変更され行動制限の緩和が進み、人流の活性化、個人消費及び企業の設備投資の持ち直しがみられ、景気が緩やかに回復しております。

【飲食サービス】

定期的のIPコンテンツとのコラボイベントの実施、季節毎にお客様のライフスタイルに合わせた商品を提供することにより、お客様満足度の向上を実現し、このような取組みを加速することにより、既存店売上高の回復が見られ、売上高は2,529百万円に達した。

【コンテンツ企画サービス】

他社店舗の開業支援業務や運營業務の受託等を軸に、売上高は1,055百万円と増加傾向にありました。

売上高

3,585百万円

前年度比 +16.0%

営業利益

133百万円

前年度比 ー%

飲食サービス事業

2,529百万円

前年度比
+12.8%

コンテンツ企画サービス

1,055百万円

前年度比
+24.6%

損益計算書(P/L)

当事業年度の売上高は3,585百万円

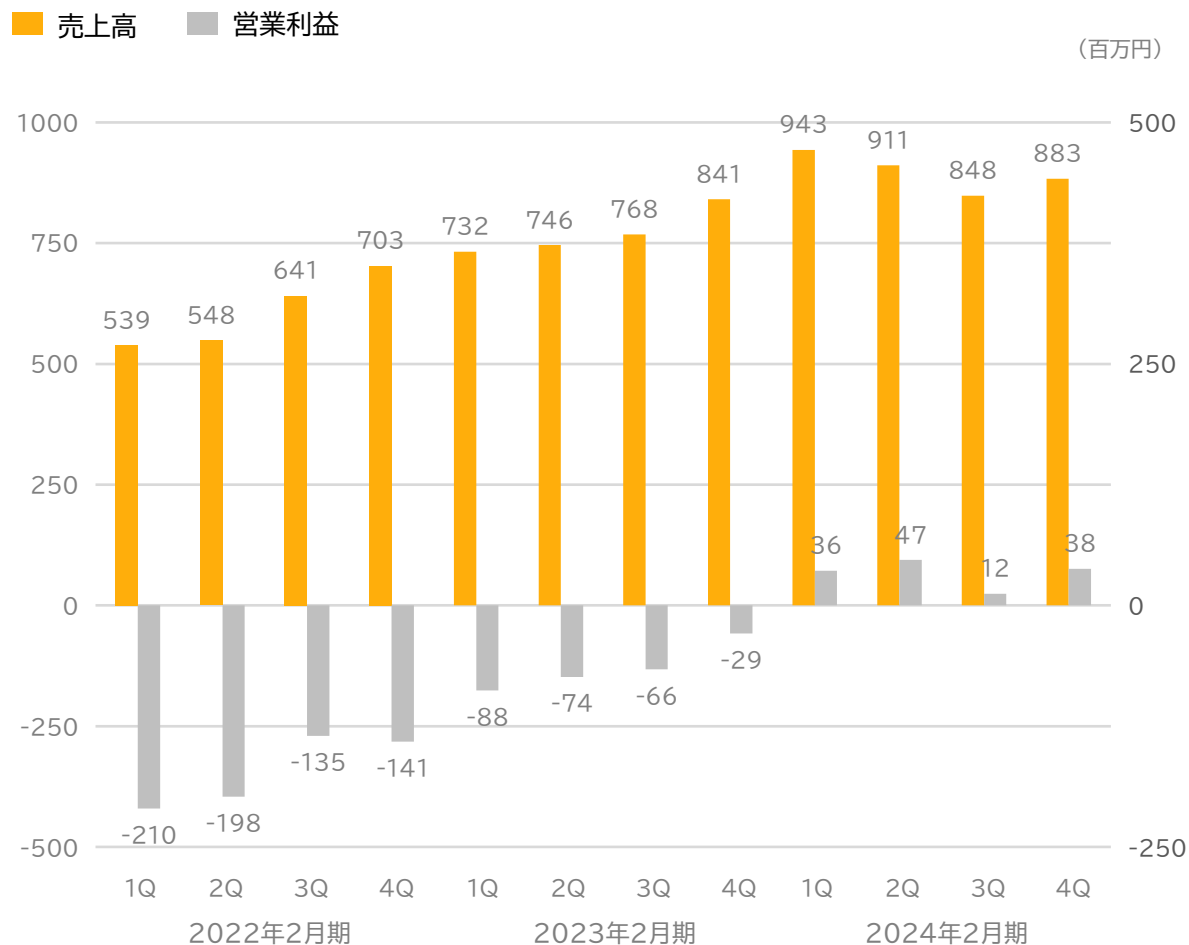
人件費の適正化や経費削減などにより、営業利益は133百万円と上場以来過去最高益となりました。

経常利益においては、138百万円、当期純利益においては、最近の業績動向及び今後の見通しを踏まえ、繰延税金資産の回収可能性について検討した結果、繰延税金資産を計上し、発生した法人税等調整額(△は利益)を△54百万円を計上した結果、177百万円となりました。

(百万円)	2023年 2月期	2024年2月期				前期比率	
	通期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期		通期
売上高	3,090	943	911	848	883	3,585	16.0%
営業利益	△259	36	47	12	38	133	—
経常利益	△188	39	49	11	39	138	—
当期純利益	△238	38	43	9	87	177	—

売上高・営業利益の 四半期推移

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが2類相当から5類へ変更され行動制限の緩和が進み、来店客数の回復と既存店売上高の回復が見られ、合わせて営業施策を加速したことにより、黒字化に成功致しました。



セグメント別状況

飲食サービス

季節毎にお客様のライフスタイルに合わせた商品を提供することにより、お客様満足度の向上を実現し、このような取組みを加速することにより、飲食サービスの業績は好調に推移いたしました。これらの結果、当事業年度における当サービスの売上高は2,529百万円となりました。

コンテンツ企画サービス

第2四半期より、当社が培ってきた企画力・空間プロデュース力を発揮することにより、屋内型テーマパークである東京ジョイポリス内の飲食スペース「Frame café」などの運営受託を締結し売上高の拡大を図ることができました。これらの結果、当事業年度における当サービスの売上高は、1,055百万円となりました。

(百万円)

	2023年2月期		2024年2月期		前期比率	
	売上高	構成比(%)	売上高	構成比(%)	増減	率(%)
飲食サービス	2,243	72.5	2,529	70.6	286	12.8%
コンテンツ企画サービス	847	27.4	1,055	29.4	208	24.6%
合計	3,090	100.0	3,585	100.0	495	16.0%

キャッシュフロー

当事業年度末における現金及び現金同等物は、前事業年度末と比較して17百万円減少し、321百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は14百万円となりました。

これは主に、預り金の減少額48百万円、未払費用の減少額45百万円等を計上したものの、税引前当期純利益127百万円を計上したこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果獲得した資金は0百万円となりました。

これは主に、有形及び無形固定資産の取得による支出16百万円等を計上したものの、敷金及び保証金の回収による収入25百万円等を計上したこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は33百万円となりました。

これは主に、長期借入金の返済による支出107百万円等を計上したことによるものであります。

(百万円)	2023年 2月期	2024年 2月期	前期比 増減率
営業活動による キャッシュ・フロー	△216	14	—
投資活動による キャッシュ・フロー	24	0	△100%
財務活動による キャッシュ・フロー	52	△33	—
現金及び現金同等物の 期首残高	477	338	△29.1%
現金及び現金同等物の 期末残高	338	321	△5.0%

貸借対照表(B/S)

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが2類相当から5類へ変更され行動制限の緩和が進み、人流の活性化、個人消費及び企業の設備投資の持ち直しがみられ、景気が緩やかに回復しております。

	2023年2月期	2024年2月期	増減
資産の部			
流動資産	681,621	676,196	△5,425
現金及び預金	338,695	321,031	△17,664
売掛金	261,088	274,196	13,108
原材料及び貯蔵品	23,392	18,841	△4,551
前払費用	4,292	26,417	22,125
未収入金	3,849	4,615	766
1年内回収予定の差入保証金	16,189	12,850	△3,339
その他	34,114	18,243	△15,871
固定資産	353,414	367,036	13,622
有形固定資産	61,355	52,987	△8,368
建物	55,415	45,196	△10,219
機械及び装置	0	0	0
工具、器具及び備品	4,400	7,791	3,391
建設仮勘定	1,540	—	△1,540
無形固定資産	1,270	545	△725
投資その他の資産	290,788	313,503	22,715
繰延資産	10,645	5,091	△5,554
資産合計	1,045,681	1,048,323	2,642

	2023年2月期	2024年2月期	増減
負債の部			
流動負債	675,478	586,664	△88,814
固定負債	129,762	75,835	△53,927
負債合計	805,241	662,499	△142,742
純資産の部			
株主資本合計	239,439	384,823	145,384
新株予約権	1,000	1,000	0
純資産合計	240,439	385,824	145,385
負債純資産合計	1,045,681	1,048,323	2,642

業績予想

売上においては、既存店の更なる成長及びIPコンテンツを活用する取り組みの加速、新規の運営受託獲得を進めて増収を目指します。

また、営業利益においても、既存店の収益改善を進めると共に、グループシナジーを活かして、販管費の抑制することで、事業の収益性を高め、その結果増益を予想しております。

	2023年2月期 (実績)	2024年2月期 (実績)	2025年2月期 (予想)	増減率
売上高	3,090	3,585	3,600	0.4%
営業利益	△259	133	151	13.5%
営業利益率	△8.3%	3.7%	4.1%	+0.4p
経常利益	△188	138	151	9.4%
当期純利益	△238	177	141	△20.3%

今後の取り組み

飲食サービス事業・コンテンツ企画サービス事業ともに、IPコンテンツを活用した取り組みや企画提案を強化していきます。

IPコンテンツビジネスに留まらず、様々な店舗の業務受託を通じた新たな取り組みへの挑戦、当社の既存ブランドの新規出店などを戦略的に行い、更なる収益向上を目指します。

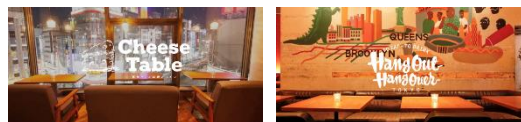
飲食サービス事業

IPコンテンツを活用した 取り組み強化



南海電気鉄道株式会社が2024年4月にオープンする『なんばパークスミュージアム』で開催されるイベントと連動した内容で企画するコラボレーションカフェを2024年4月19日（金）より、#702 cafe&diner なんばパークス店内一部スペースにて「美少女戦士セーラームーン ミュージアムカフェ」を開催。今後もIPコンテンツを活用した取り組みを強化して事業の成長へつなげてまいります。

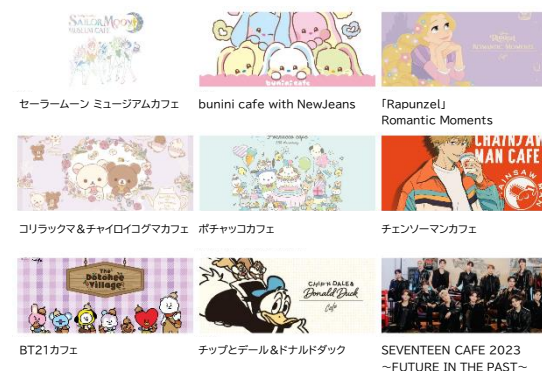
既存ブランドの出店



トップラインを引き上げ、 更なる収益向上

コンテンツ企画サービス

IPコンテンツを活用した企画提案 を自社店舗以外への提案 (グループ会社含めて他社との協業)



既存業務受託(ポケモン社等) 含め新しい取り組みを加速



トピックス

前期事業総括

- 飲食サービスのV字回復及びコンテンツ企画サービスの安定的収益
- 新規の運營業務受託2件獲得により、成長
- グループ経営による、販管費の削減
- IPを活用する取り組みの成功

新型コロナウイルス感染症の収束にともない、コロナ改善の日常が戻りつつあり、消費活動が活発になりました。また、インバウンド需要が重なったことにより、売り上げがコロナ禍前から大きく増加。

販売費の削減、コラボカフェなどIP活用の取り組み成功といった効果も合わせ、収益性も改善してまいりました。

2023年5月にCAセガジョイポリス株式会社、同年7月に株式会社エルティーアールとの運營業務受託を開始。飲食サービス事業・コンテンツ企画サービス事業ともにさらなる事業の成長を目指します。

飲食サービス事業

既存店コロナ禍前売上比

102.2%

売上構成比率

期間限定
コラボレーションカフェ

9

通期コンテンツ

収益性の改善

前期比
改善率 **12.2%**

販管費配賦前営業利益率

コンテンツ企画サービス

常設コラボカフェにて
コラボ実施

37

通期コンテンツ
2023年2月期は32コンテンツ

CAセガジョイポリス株式会社
との運營業務受託開始

株式会社エルティーアール
との運營業務受託開始

本資料の 取り扱いについて

本資料に記載された内容は、本資料の作成時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本資料において提供される情報は、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的に当該情報とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

本資料における将来の展望に関する表明は、今後の将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新・変更するものではなく、また、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本資料の更新・変更をおこなう義務を負うものではありません。

本資料は投資家の参考に資するため、当社の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものであり、当社株式の購入を勧誘するものではありません。

IRに関するお問い合わせ

株式会社エスエルディー 人事総務部

TEL 03-6866-0245

<https://www.sld-inc.com/>